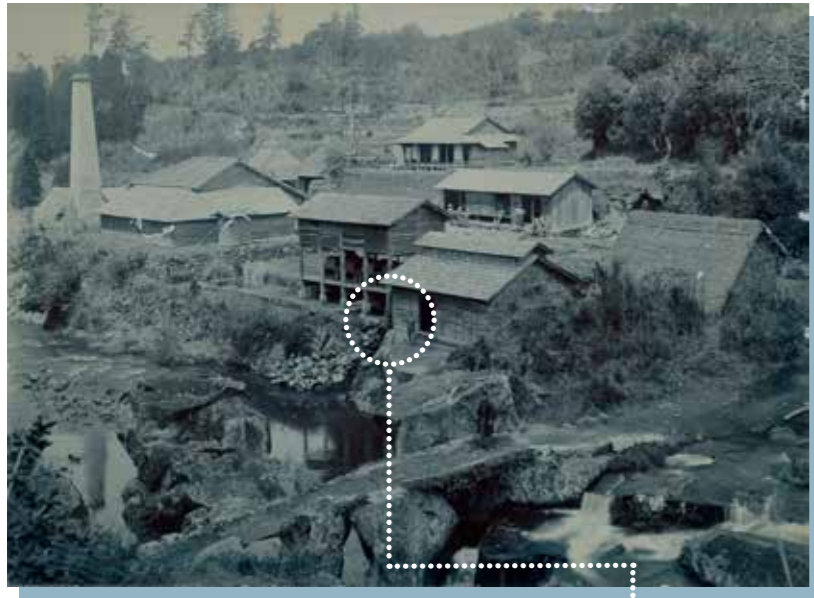


かね やま とどろき
金山水車 (轟製錬所) 跡 南九州市



▲当時の轟製錬所。水の豊かな麓川沿いに建ち、写真中央の建物横に、水車の一部が見える
 写真提供：ミュージアム知寛

調査から、この施設では約8km離れた赤石鉾山（現在も稼働中）から荷馬車で運んだ鉾石を水車の動力で砕き、金や銀を取り出す作業（製錬）を行っていたことがわかりました。

当時の技術者たちが、水の豊かな川や加工しやすい岩盤などに、水車利用に適した自然地形に着目し、この場所を選んだと考えられます。

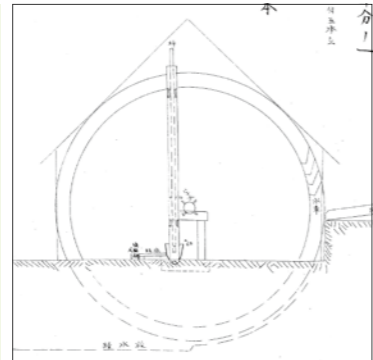
人力で、岩盤を深く掘削した水車坑や導水溝は、当時の技術力の高さを物語っています。

発見された遺構群は保存状態が良く、古写真や図面など、関連文書も豊富に残存。今後の活用が期待され、現地で保存されることになりました。

近代遺構の迫力と精密さから、金銀にかけた「鉾山師」たちの熱きロマンを感じます。



■住所：南九州市知寛町郡



▲水車の設計図
 図提供：ミュージアム知寛

平成26年、南薩縦貫道（知寛道路）建設に伴う発掘調査で、明治末期から昭和10年まで稼働していた製錬所跡が確認されました。薩摩伝統の石材加工・水車利用技術の巧みさが明らかになりました。

甦る
 鉾山師の熱きロマン



▲発見された水車坑の跡。岩盤※1を約3m削り込んで、水車※2を設置していた

- ※1 約10万年前の阿多火砕流が起源
- ※2 水車の直径は約5m



昨年7月に発掘調査された
 敷根火薬製造所跡（霧島市国分）

文久3年（1863年）に、薩摩藩の集成館事業の一環として造られ、8基（推定）の水車動力を駆使して、年間24トンの火薬を生産していたとされています。

現在は、その跡地の多くが水田となっていますが、当時のものと考えられる石垣が残り、水車への導水路の一部は、農業用水路として現在も利用されています。

（写真は第一水車落水口跡）

特集 甦る
鹿児島県の遺跡

数千年の時を越え、甦るいにしへの遺跡ー。

県立埋蔵文化財センターでは、県内の遺跡発掘から調査研究、保存活用から普及啓発まで、埋蔵文化財に関するさまざまな業務を担っています。

今回は、近年発掘された最新の遺跡情報と、センターが担う役割に迫ります。

太古から脈々とつながる現在、そして未来へ。

甦った遺跡が語る、古代史のロマンに触れてみませんか。

南薩のタイムカプセル～遺構が物語る歴史に想いを馳せて

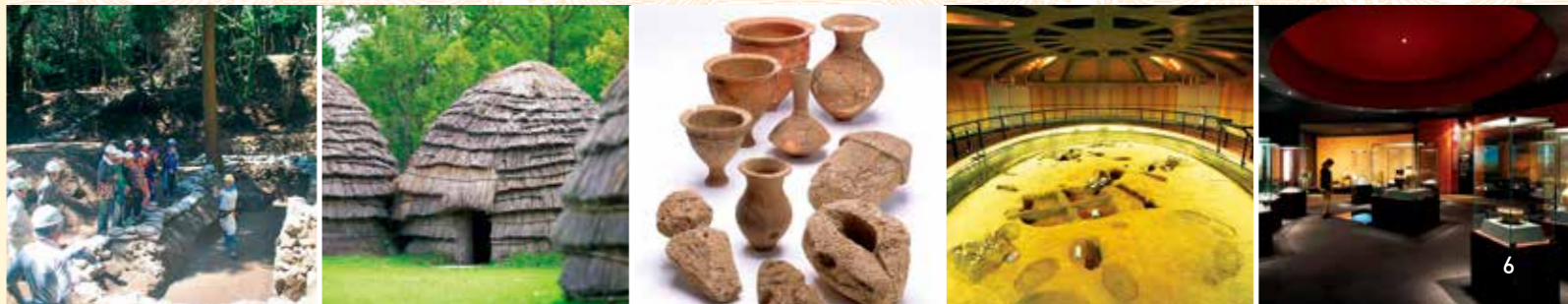
金山水車跡 発掘作業員 松清 久二さん

私は、金山水車跡が発掘された知覧町郡に生まれ育ちました。少年時代、麓川に潜ってウナギや鯉、フナを捕ったり、滝壺に飛び込んで川遊びをしたり、麓川の下流にある発電所跡まで泳いでいったこともあります。この付近は、集落の子どもたちにとって格好の遊び場でした。

金山水車跡の発掘作業員として調査に参加し、当時の水車坑や石垣が顔を出したときには、感動しましたね。昔の記憶が鮮明によみがえって、まさにタイムカプセルを開けたような感覚です。

発掘された遺跡が現地で保存されることになり、これほど嬉しいことはありません。

これから周辺が調査され、遺跡の全容が解明される日が待ち遠しいです。将来的に、水車や建物の復元など、製錬所跡が整備されていけば、南薩の新たな観光地として発展するでしょう。ますます期待が膨らみます。



鹿児島島の遺跡を甦らせる プロフェッショナルたち

県立埋蔵文化財センターの業務には、多くの人々が関わっています。ここでは、鹿児島島の遺跡を甦らせるプロたちの仕事ぶりをご紹介します。大きく分けて「発掘調査」「報告書作成・整理作業」「普及・啓発活動」があります。



3 普及・啓発活動

発掘調査の成果を広く県民に公開・提供するため、さまざまな普及・啓発活動を行っています。



企画展



現地説明会



出前授業・まいぶんキット貸出



企画展講演会



遺跡フォーラム

2 報告書作成・整理作業

発掘現場から持ち帰った遺物や図面、写真などを整理し、遺跡の様子を人々に正しく伝えるために、報告書を作成します。



接合



復元・色つけ



トレース・図面作成



写真撮影



報告書刊行

1 発掘調査

昔の人が暮らしていた痕跡（遺構）を写真や図面に記録し、使っていたもの（遺物）の出土位置を記録します。



掘り下げ



遺構検出



遺構掘り下げ



実測



写真撮影

鹿児島(鶴丸)城跡 鹿児島市



▲ 鹿児島(鶴丸)城本丸跡(現在の県歴史資料センター黎明館)

甦る 近世薩摩の“司令塔”

島津氏の居城である鹿児島(鶴丸)城跡。現在、石垣修復に伴う発掘調査を実施しています。調査結果から、近世薩摩の政治・文化の中心地としての様相が少しずつ明らかになってきました。



鹿児島(鶴丸)城は、1602年に築城。以来400年の歴史を誇る県の指定史跡です。夏には、石垣をバックに美しい蓮の花が咲き誇りますが、その石垣は、経年の風化などにより傷みも見られます。石垣の状態を確認するため、平成26年度から発掘調査が行われています。

城内に向かう石橋を渡った先には、明治6年の火災で焼失するまで、鹿児島城のシンボルとして建っていた御楼門を復元する計画も進んでいます。

これまでの調査結果から、石垣の周りには精巧な石組みの排水溝が巡らされ、雨水などから石垣を守るために工夫されていることが判明。また、石垣には西南戦争や第二次世界大戦時の弾痕や銃弾がめり込んだままのものもあり、生々しい歴史の記憶を刻んでいます。

さらに、城内からは、お殿様が能学に親しんだ「能舞台」の跡も発見されました。勇猛果敢で知られる島津氏の風流な側面も浮かび、今後も新しいふしぎ発見！が続きます。



鶴丸城・中央が御楼門(尚古集成館蔵)
■住所：鹿児島市城山町7-2
県歴史資料センター 黎明館敷地内



▲ 現地説明会の様子(能舞台跡)

“甦る鹿児島城”に携わる誇り

鹿児島城跡 整理作業員 山元 順子さん

発見された鬼瓦 ▶



▲ 貴重な出土品を丁寧に水洗いする山元さん

遺跡で発見された瓦の表面に残る痕跡を見落とさないよう、水洗い前のブラッシングには細心の注意を払っています。特に、瓦に押しつけてある製造業者のスタンプや刻印に気をつけながら、瓦の水洗いをします。

たくさん瓦の破片の中から、鬼瓦の肩が出てきたときは驚きましたね。のっぺりしていると思っていた瓦の表面に、布目痕が出てきたこともありました。

この仕事をして、近所の屋根の瓦にもよく目がいきます。瓦にも色々な形があって、それぞれ名前がついているんですよ。

これからも微力ながら、石垣の修復や御楼門の復元に向けて貢献できることを誇りに、丁寧に仕事に携わってまいります。



発掘調査遺跡と県内の主な考古資料展示施設

平成 28 年度は、県立埋蔵文化財センターと(公財)埋蔵文化財調査センターで、37 遺跡の発掘調査と整理作業を行い、12 遺跡の報告書を刊行する予定です。また、上野原縄文の森では、両センターの発掘調査と整理作業の中から、特に注目される成果をわかりやすく紹介する、発掘速報展を開催しています。その他、県内各地の資料館でも、各地の遺跡や貴重な資料をご覧いただけます。

この秋、ロマンあふれる鹿児島島の古代史にぜひ触れてみませんか？



⑤ 鹿児島大学総合研究博物館 (常設展示室)

住所：鹿児島市都元 1 丁目 21-24
TEL：099-285-8141



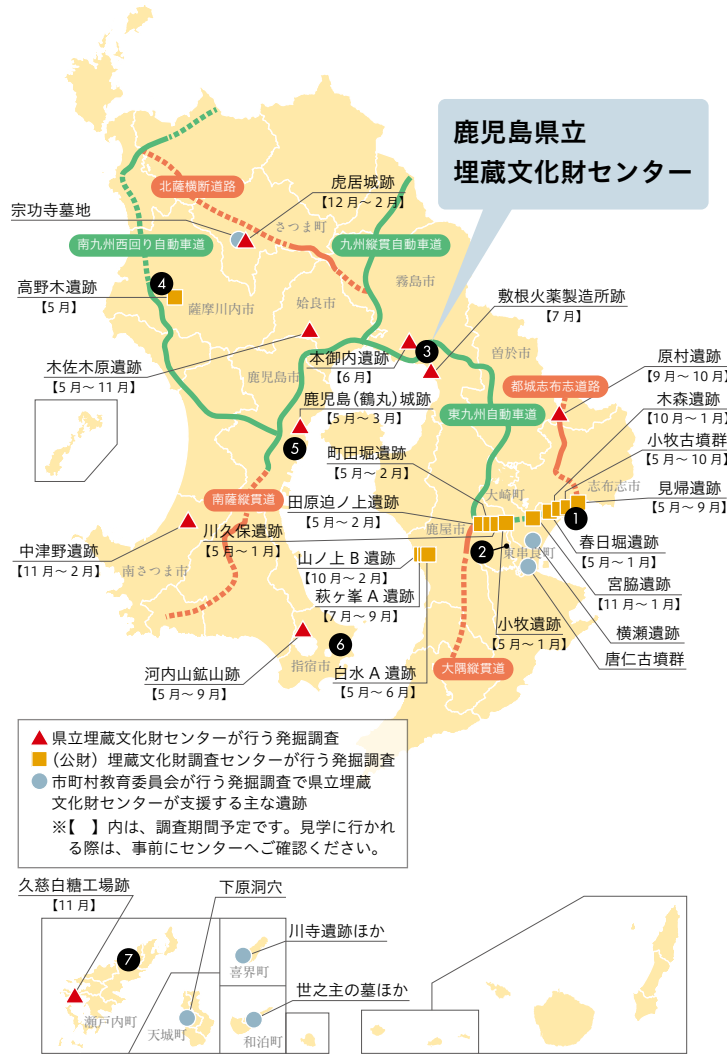
⑥ 指宿市考古博物館 時遊館 COCCO はしむれ

住所：指宿市十二町 2290
TEL：0993-23-5100



⑦ 奄美市立奄美博物館

住所：奄美市名瀬長浜町 517
TEL：0997-54-1210



※営業時間など、各施設にご確認の上、お出かけください。



① 志布志市埋蔵文化財センター

住所：志布志市志布志町安楽 41-6
TEL：099-472-0140



② 串良歴史民俗資料室

住所：鹿屋市串良町有里 507-1
TEL：0994-31-1167



③ 上野原縄文の森

住所：霧島市国分上野原縄文の森 1 番 1 号
TEL：0995-48-5701



④ 薩摩川内市川内歴史資料館

住所：薩摩川内市中郷 2 丁目 2-6
TEL：0996-20-2344

INFORMATION

11月13日(日)まで、第46回企画展「新発見！かごしまの遺跡2016」を開催中！

平成 27 年度の発掘調査から、特に注目される遺跡の成果について紹介しています。

「いちばん新しい、かごしまの昔」をぜひご覧ください。

なお、第 47 回企画展「近代化の一部を担った薩摩焼～その技術と伝統～」(11 月 25 日～平成 29 年 3 月 20 日)を開催予定です。

鹿児島県立埋蔵文化財センター

- 住所：霧島市国分上野原縄文の森 2 番 1 号
- 見学：毎日午前 9 時～午後 5 時
※入館無料(土・日・祝日・年末年始を除く)
- HP：<http://www.jomon-no-mori.jp>

